

## 会 議 録

会議の名称	平成24年度(2012年度)第4回学校教育審議会		
開催日時	平成24年(2012年)8月28日(火) 18時30分～20時00分		
開催場所	庄内コミュニティプラザ 会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	教育委員会 教育総務室 企画チーム	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	安家委員、大高委員、河崎委員、黒田委員、鶴澤委員 永井委員、西川委員、伴野委員、平尾委員、福富委員 福盛委員、山本委員、行岡委員、義本委員	
	事務局その他	山元教育長、大源教育次長、渡辺教育推進部長、羽間生涯学習推進部長、 西尾理事、山村資産活用部長、松田市民協働部長、足立こども未来部長、 小森教育総務室長、泉学校給食室長、亀谷人権教育室長、中井教職員室長、 北之防教育推進室長、鈴木教育センター長、山羽地域教育振興室長、 五嶋市民協働部次長兼中部地域連携センター長、 小嶋学校施設管理チーム長、島野企画チーム長、林教職員人事チーム長、 鈴木小中学校チーム長、六嶋保健体育推進チーム長、 新海児童生徒支援チーム長、野村支援教育チーム長、福中文化館チーム長、 正意地域教育振興チーム長、杉山青少年育成課長、 山口学校施設耐震化PT総括者、 第六中学校・大住校長、第七中学校・林校長、島田小学校・川野校長、 千成小学校・湊口校長、 長坂副主幹、村上主査、大野主事	
議題	○南部地区の小規模校の課題解消に向けた具体的方策の検討について		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

**会長** 本年度第4回豊中市学校教育審議会を開会したいと思います。

本日は南部地区の学校の問題を考えるということで、蛍池の教育センターではなくて庄内コミュニティプラザで審議会を開催することにいたしました。

また、本日はオブザーバーと言えいいんでしょうか、庄内南部地区の小・中学校から校長先生が4人ご出席いただけるようでございます。もちろん、委員の皆様にお諮りいたしますけれども、校長先生にどうしても尋ねてみたいことがおありでしたら、手を挙げていただければそれができると思います。また、校長先生のほうからどうしてもこれは言っておきたいということがあるようでしたら、またご発言をお願いするかもしれません。どうぞよろしくお願いいいたします。

それでは、まず本日の審議会の成立要件につきまして事務局から報告をお願いいたします。

**審議会事務局** 審議会の成立要件についてご報告いたします。

豊中市学校教育審議会規則第7条の規定では、審議会は委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができないとなっております。現在の委員数19名のうち本日13名のご出席がございますので、過半数を満たし、審議会は成立しておりますことをご報告申し上げます。

**会長** それでは、次に事務局から本日の資料の確認をお願いいたします。

**審議会事務局** 本日の資料につきましては、先日郵送でお送りさせていただいておりますが、「次第」が1枚、それから「前回審議会の振り返り」という資料が1部、それから「南部地区再編の試み（改訂版）」ということで、前回お示しした資料若干手を加えておるものが1部、それから参考資料といたしまして「市立小・中学校に関する基礎データ（平成24年8月改訂版）」というものを1部。それから、今年3月の審議会で既にお渡ししております「市立小・中学校の適正規模と通学区域のあり方について（答申）の具体化に向けた検討経過及び結果について」という中間まとめ、それから「中間まとめの概要版」、そして「市立小・中学校に関する基礎データ」、これが平成23年度推計に基づくものになりますが、以上となっております。

**会長** ありがとうございます。

委員の皆様、お手元に資料はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

続きまして、本日は傍聴者はいらっしゃいますでしょうか。

**審議会事務局** ただいまのところ傍聴者の方はおられません。

**会長** わかりました。

それでは、本日の議事に移りたいと思います。

本日は、前回に引き続き南部地区の学校の課題について審議していきたいと思いますが、本題に入る前に児童・生徒及び学級数等の将来推計について最新データが更新されたようですので、簡単に事務局から説明をお願いできますでしょうか。

**審議会事務局** そうしましたら、お手元の参考資料「市立小・中学校に関する基礎データ（平成24年8月改訂版）」をごらんください。

この資料は、今年3月にお渡ししております同名の資料を年次修正したもので、平成24年5月1日現在の児童数、生徒数、学級数、そして町目別、年齢別人口などをもとに算出した将来推計の最新データを反映したものでございます。昨年度の推計値と比べて児童・生徒数が若干かい離している学校も幾つかございますが、主な理由といたしま

しては、校区内のマンション開発の計画変更、竣工時期が早まったり遅まったりといったところで若干変わっているということがございます。本日時間の都合もございまして、今回諮問させていただいております3つの課題に係る学校のうち前年度の推計と変化が見られる学校をピックアップして簡単にご説明したいと思います。

まず、6ページの上野小学校をごらんください。

昨年度と比べますと若干減少しておりますが、その後児童数は1,080人程度の横ばいで推移すると予想しております。昨年度の推計値と比較いたしますと、平成28年度以降の児童数が思ったほど減らない、横ばいで推移するというふうに思われます。

続きまして、7ページの南桜塚小学校でございます。こちら昨年度の推計値と比較いたしまして児童の増加が少し緩やかになるということになっております。ただ、学級数はほとんど変わりませんので、一次答申のときにいただきましたように、やはり改築工事の際に教室数を確保する必要があるということが言えるかと思えます。

それから、8ページ、9ページ、10ページには、今回ご審議いただきます庄内地域の6小学校が記載されております。庄内小学校から千成小学校まででございます。どの学校も減少傾向にありまして、ほとんどの学校は昨年度推計とほぼ同じ状況でございます。ただ、庄内小学校につきましては、その減少傾向に少し拍車がかかっております。一方、野田小学校につきましては、昨年度推計と比較して若干緩やかになっており、現状の学級数が今後も維持できるだろうという見込みになっております。

続きまして、今後の審議対象となります千里地区の小学校になります。その次のページから北丘小学校以降になるんですけれども、千里ニュータウン再生に係るマンション再開発が進んでいることを裏づけますように、いずれの学校も今後増加傾向となっております。

13ページをごらんください。

西丘小学校ですが、昨年度の推計値と比較いたしますと、大幅に児童数、学級数が伸びているということがこの学校の特徴になります。

また少しページが戻りますけれども7ページ、新田小学校につきましても現在大規模な区画整理が行われておりまして、その地にマンション建設が予定されていることから昨年度推計と比較いたしまして児童数、学級数とも増加傾向が見られます。

また、千里地区に関連する学校といたしまして20ページの東泉丘小学校がございまして、マンション開発が若干遅れるということがわかりましたので、それを推計の算出にも反映させている関係上、児童数の推計に大きな影響が出ておりまして、昨年度の推計値と比較いたしますと、当面は横ばいで推移して増加傾向に転じるのが少し遅れる見込みというふうになっております。

それから、少しまた戻ってしまうんですが、16ページの少路小学校をごらんください。

この学校は、桜井谷東小学校を検討していただく際に校区変更の対象として挙げられた学校でございますが、昨年度の推計ほど減少しない、多少の増減はあるものの横ばい傾向であり、学級数も32から34と依然大きな学校であるという見込みでございます。

一方、19ページの桜井谷東小学校につきましては、増加傾向に拍車がかかりまして平成30年度までに特別教室等の転用だけでは必要な教室数は確保できないという予想となっております。一次答申の際に校舎の増築を見越して「他の目的に転用している教

室を普通教室とすることなど」、「など」という言葉を追加していただいて、「・・・などで教室不足が生じないように努める必要がある」というふうな文言に修正していただいたという経過がございますけれども、この推計データを見る限り、転用では対応が困難と考えられますので、校舎増築による対応は避けられない見込みとなっております。

あと、22ページ以降の中学校につきましては、昨年度の推計と比較して大きな違いはほとんど見られませんでした。

ただ、30ページ、最後のページになりますけれども、第十七中学校につきましては、生徒数の増加が当面とまりまして横ばいで推移するものと思われます。これは、先ほどの東泉丘小学校のマンション開発が少し遅れることに伴って増加傾向が遅れるだろうということと連動しているかというふうに思われます。

以上、雑ばくな説明で申し訳ございませんが、よろしく願いいたします。

**会長** もう細かくは繰り返しません。桜井谷東小学校はやっぱり校舎を建てなきゃならなくなるということでしたし、西丘小学校は以前の推計に比べてかなり児童数が増えているという予想だと。しかし、丁寧にやってもらったんですが、あくまで予想ですので、また来年変わってしまうということが実はあるので、それがとても難しいところではございます。しかし、今のところそういう状況だということだと思います。

それでは、もう本題に入りたいと思いますが、「前回の振り返り」ということでまず事務局からご説明をお願いしたいと思います。

**審議会事務局** そうしましたら、「前回審議会の振り返り 豊中市学校教育審議会（7月23日）の概要」という資料をごらんください。

最初に、学校教育審議会の大きな流れについて確認させていただきまして、まず6月19日に「近い将来、教室の不足が発生する学校」についての対応ということで一次答申をいただいたところでございます。残る2つの課題、「児童・生徒数の少ない学校」、それから「分割校の学校」、この課題につきまして、これらを検討していくにあたりまして小規模校の課題解消や教育活動の工夫といった共通する点が多いということから、南部地区の、この庄内地域の課題からご審議いただきたいということでご提案させていただいてご了承いただいたかと思っております。

続きまして、「南部地区の再編を試みるにあたっての前提」ということで南部地域の児童・生徒数の推移であるとか、その地域特性、それから市がどういった動き、取り組みをしているのか、そういったことを振り返ったと思います。その中で、児童・生徒数の減少については、南部地区と千里地区、それ以前にまず全国的もしくは大阪府で見ても非常に人口が減っている、子どもの数も減っている中で、これは庄内地域特有の動きなのか、また庄内地域と千里地区でどんな違いがあるのかということで会長からご質問があったかと思っております。これにつきまして、先日は細かい数字を持ち合わせておりませんでしたので、今回3ページ目以降にグラフをつけさせていただいております。

このグラフを見ていただきますと、3ページ目のグラフ、児童数の推移というのは小学生の数ということで、棒グラフであらわしているのは豊中市全域の児童数でございます。折れ線グラフで太い線になっておりますのが庄内地域の今回対象となっております庄内小学校、庄内南小学校、庄内西小学校、野田小学校、島田小学校、千成小学校、この6校の合計した児童数、それから千里地区につきましては北丘小学校、東丘小学校、西丘小学校、南丘小学校、それから新田小学校、新田南小学校、この6校の合計児童数

ということになっていまして、ピークはいずれも昭和40年代から50年代のところで数字を入れさせていただいているかと思います。全体でいきますと4万3,486人、庄内地域のピークは8,273人、千里地区のピークが6,913人ということがこのグラフで見てとれます。その後、急激に児童数が減っていきませんが、平成14、15年あたりからでしょうか、ほぼ横ばい傾向というか、減少の程度が少し緩やかになっております。一方、庄内と千里を見比べますと、庄内は落ち込みがずっと続いていると。平成24年5月1日現在で、庄内地域1,891人、千里地区2,488人、これが平成30年の推計値ですと、庄内はさらに落ち込んで1,567人、一方千里のほうは2,807人と少し増えております。ですので、庄内地域と千里地区では状況は異なっているということが言えるかと思います。

ちなみに、生徒数とその次のページに出ております。

生徒数もやはり、庄内地域と千里地区を見比べますと推移の状況が若干違ってきます。千里地区につきましてはほぼ横ばいで進むだろうと、それに対して庄内地域のほうはさらに落ち込んで平成30年の時点では772人まで減っていくであろうということが見てとれるかと思います。その後ろですけれども、南部地区と千里地区、さらにその差がわかりやすいようにと思ひまして、平成18年以降のその推移をピックアップして大きくして示しております。いずれにしても、千里地区と庄内地域とを見比べますと、傾向として庄内地域は減少していくのに対して千里地区は横ばいから微増と。小学生が増えていくということは、中学校に上がってきますので、生徒数もいずれ増えてくる可能性はあるのかなというふうに思われます。

すみません、最初のページに戻っていただきまして、次の2つ目の丸のところです。

市の動きとしては、第九中学校、第十二中学校、第十四中学校において9年間を見通したキャリア教育のカリキュラムづくり等に取り組んでいると。これにつきましては、前回資料で少し紛らわしいところがありましたけれども、決して南部地区だけに限った取り組みではなく、これは市としての施策で取り組んでいるところだという説明をさせていただきます。

それから3つ目、高校の中退者の正確な数字は把握できておりませんが、南部地区では高校中退率が相対的に高い状況にある。市では、市内中学校、高校、支援学校をつなぐ合同校長会を開催するなど、連携の取り組みも行っていますといったことが教育長のほうから説明があったと思います。

続きまして4点目、南部地区は人口が減り、高齢化率が上がっている。木造賃貸住宅の建替えはありますが、地区の再開発は全体的に停滞しており、都市計画道路の整備も少し遅れている状況です。ただ、悪い面ばかりではなくて、ものづくり系の企業は大変根強く頑張っております。それから、商業につきましても、豊南市場に代表されますように非常に活気のある商店街があります、といったことが確認されたと思います。カンフル剤として新しい学校や南部コラボセンターといった社会資源を新たに投入することで地区の活性化が図れるといった意見もございます。

**会長** 恐れ入ります。

大体要点をまとめていただいて、できましたらもう南部地区再編の試み改訂版のほうの説明にちょっと費やしたほうが、時間的なものもあるので。

**審議会事務局** わかりました、申し訳ございません。

では、2ページ目めくっていただきまして、学校選択制の検討につきまして教育長のほうから、3つの試みにもう一案加えて、学校選択制についてもご議論いただきたいという提案がありました。それにつきまして、委員の皆様から以下の3点のような意見が出たかと思えます。今回、改めてこの3案プラス1案の4案でご審議いただければというふうに思うところでございます。

**会長** ありがとうございます。

大体確認していただいたと思えます。「取り扱い注意」と書いておられますところで、試み①、試み②、試み③と、そしてまた選択制を考えてみてはどうだというご提案もございましたので、それも含めまして、実は今日は1つの合意というようになるかどうかちょっと僕はわからないと思っています。ただ、いずれ答申を書くわけですが、事務局に基本的な答申案を書いてもらいますが、その材料というんですか、その答申を書くためのいろんなネタ、コンテンツを今日出していったらどうかと思っているんですね。こんなこともできるだろう、これがいいんじゃないか、みたいな形ですね。ですから、基本的には試み①として庄内学園構想があるんですけども、どうでしょうか、例えば①、②、③、④と書いてありますので、①の案から順番にご意見交換できませんかね。こんな荒唐無稽だという案もあるかもしれないし、たぶん問題点とか欠点だけ先に出てくると思うんですが、むしろ可能性はこんなところもあるとか。第2案でありますのは、まず分割校を整理し、中学校区を再編する例ですね。第3案は、まず小学校区を再編してその後、中学校区を再編するというような案で。選択制を導入したら指定学校なくなるわけで、校区再編も必要なくなるわけです、4番目の案ですね。どうでしょうか、①について、というふうな制限は僕はしないんですけど、順番的にこの案について委員の皆さんはどのようにお考えですか。

3つの中学校をもう庄内中学校、中校舎、西校舎、北校舎にして1つの学園にする、6つの小学校からどの校舎へ行ってもいい。しかし、いずれ、現在第十中学校であるところの北校舎でしょうか、そちらは縮小して、中校舎と西校舎で子どもたちの学びは支えていく。第十中学校の跡地につきましては、南部コラボの新しい統合された行政組織をそこに移したり、あるいはキャリアセンターをつくったりというふうな活用をしていこうという考え方なんですけど、イメージ伝わりますかね。よくわかりませんというご意見があったら、それはそれでいいですけども。

例えば、A委員は庄内地域にお住まいですよ。どうですか、こんなイメージでピンときませんか。

**A委員** 私自身は小学校で今PTA会長をしまして、小学校南部ブロックの代表としてこちらに入らせていただいているので、この6つの小学校の現状がわかっているかと言われたらほぼわかっているんですけど、人数は少ないですよ。これから先、たぶん児童数、生徒数も増えていかないだろうし、野田小学校は横ばいに近いかもしれないですけど、他の小学校は徐々に減っていくというデータもありますし、たぶん児童数も減っていくと。ただ、この試み①、試み②、試み③、試み④ではなくって、前回のお話の中で、やっぱり南部地域は学力が北部や中部に比べて低いというお話もあったかと思うんですけど、例えば第3案の小学校を減らすとか中学校を減らすとか、第1案の庄内中学校、北校舎、中校舎、西校舎に校長が1名でそれぞれの校舎に副校長あるいは教頭を置くという形で、今児童数は少ないですけど、クラス数も少なくはなっていますけど

れども、一人一人の児童に、あるいは一人一人の生徒に目が行き届くっていう状態ではないかなと思っているんです。前回のお話にもありましたが、南部地域は家庭状況がよくないであるとか、家庭教育環境がよくないであるとか、そういった家庭が豊中市全体と比べても比率が高いのではないかというお話もありましたが、私もたぶんそうやと思います。ただ、たぶんそうやと思うんですけど、今の小学校の数のままで、今の教職員の方々の数でもなかなか賄い切れない状態であるのに、そこから例えば小学校数を減らす、イコール先生、教職員数が減る、ということになってくるんだと思うんですけど、たぶん余計に目が行き届かなくなって、今でさえ状況があまり芳しくない、よろしくないっていうお話があるのに、学校数が減って教職員数が減れば、なおのこと目が行き届かなくなって余計に悪くなるんじゃないかなっていう気はするんですけど、こういう意見っておかしいですかね、よくわかんないですけど。

**会長** 試み①では、学校はひよっとしたらそのまま残る可能性はあります。3つの中学校は一体化するんですけども、どこかのウイングを閉じる可能性はありますけれども、このままいく可能性もあるわけですよ。小学校は変わらないですよ。確かに、学校が減ってしまうと、せっかく今小規模校のメリットがあるのにそれがだめになってしまうんじゃないかというご意見は承れると思いますね。

ほかにいかがですか、どなたでも。

**B委員** 前提の話になるんですけど、基本的に①と②の線の引き方は同じ引き方なんですよ。

**会長** 線というと校区。

**B委員** 校区の。たまたま位置とネーミングの問題と統合の関係の違いだけかなという。

**会長** たぶん統合はないと思いますよ。

**B委員** 資料の中に表現上「1つの中学校に統合し」という書き方がしてあるので。

**会長** でも、校舎はそのまま残ると。

**B委員** ということですね。ただ、細かい話をすると、庄内、野田小学校の右側の稲津町1、2、3丁目はこの際、庄内地域から外して、指定校は豊島小ということですか。

**会長** 今調整区域なんですか。調整区域はそのまま残すという案でしたか。

**企画チーム長** 今この稲津町につきましては調整区域となっております。指定校は、小学校は豊島小学校、中学校は第十中学校ということになっておりますが、小学校は野田小学校への指定校変更が、また中学校は豊島小学校の卒業生のみ第四中学校への指定校変更が選択できるという状況でございます。この地域につきましては、この試みの中では具体的にどうするか、決めたものではございません。ただ、この案が検討されるにあたっては、稲津町についても当然議論されるだろうというふうには認識しております。

**A委員** 校長先生の方々もいらっしゃってるんで、ちょっと言いにくい部分もあるんですけど、試み②なんですけど、昨日会長のご講義「地域とともにある学校」を聞きに、大阪市中央公会堂にお邪魔しました。

それで、2小1中であるとか、1つの小学校全員が1つの中学校に上がっていくことのメリットが私の中でよくわかっていなかったんですけど、昨日のお話をお伺いして、小学校と中学校を9年間としてトータルで一人一人の児童、また一人一人の生徒として小学校、中学校の先生全体で一人一人の児童に当たっていく、一人一人の生徒に当たっていくというお話を聞いたときに、それはすごく良いことだなって、そのメリットとい

うのがそのお話をお伺いしてやっと自分自身理解ができたんですけれども。そういう意味では、この試み②の、それぞれ小学校は6つの小学校のまま置いてあって、中学校も3つ置いてあって、ただ今分割校が6校のうち3校あるということで、例えばそれがすべて同じ中学校に進学していくというのは、9年間トータルで見ただけのことでは良いことなのかなと思ったんですけど、ただそれぞれが今まで通っていた学校だと近かったのに、こちらの校区になると遠くなるという部分では、私も子どもを抱える一保護者として、校区が変わってくるという部分では若干反対は出てくるのかなという気はするんですけれども、やっぱり9年間を通して我が子を先生方に見ただけという部分ではすごくいい提案なのかなとも思いました。

**会長** この審議会で分割校の解消というのは非常に重要なテーマですので、北大阪ではもう割と定着しておりますが、大和川より南に行けば分割校なんて普通わからない、「それ何」と言われますよ。1つの小学校が2つ以上の中学校に分かれてしまうというのは大阪南部では非常に少ないと思います。北部では一般化されていますけどね。そういう意味では、あまり当たり前の状態ではないんですね。それを解消していくのは大事なことです。おっしゃるように小学校の通学区域を変えるっていうのは、これまで第七中学校に進学していた者が今度は第六中学校に行くとなると、非常に難しい。それはもう地域住民の同意を得ながら、絶対このほうがベターなんだと、同じ小学校全員が同じ中学校へ行きましょうというのがベターだということが説得できれば可能性はありますね。その場合は、第十中学校が1小1中になるんですよ。これ、やっぱり大きな工夫があるかもしれませんね、施設一体型の学校につくり直すと、そういうピンチをチャンスにする工夫が要るかもしれませんね。

ほかにいかがでしょうかね。

**委員** すみません、前回休ませていただきましたので、家におりまして書類が届きました。この書類を見させていただいて、「えっ、なんで庄内なん？」というのが正直なところありました。具体的な説明等は、まだ議事録を見てないのでわからないんですが、前回解説されたものをまた繰り返しているかもしれませんが、正直豊中に長く住んでいるもので、庄内をこのような形にできるわけがないと、失礼ながら思っておりました。今日ここへ自転車で来ました。すると、もう本当に庄内のお人柄がにじみ出ている、下町の風を受けながら来たんですが、あるところから急にパッと開けて道も広がってききましたし、「あっ、こんなふうになくなってたんだ」というのが今日まじまじとわかりました。それを頭に描きながら今回の審議に入ろう、入ろうとしてるんですけど、やはり長きにわたり豊中にいるもので、なかなか庄内をこういう形に再編するというのは、正直ピンときません。以前、彩都のほうに健全育成会で行かせていただきました、箕面市立彩都の丘学園の小中一貫を勉強させていただきました。そのときに本当に広々と、子どもたちが伸び伸びと、小学校の先生も中学校の先生もまじられて、両方の教員免許をお持ちの方は、中学の先生は小学校へおりにこられて、その逆もありで、本当に仲よく皆さん、広々と生活なさっていました。

そこは新しくできたところなんで、新しい住民の方がそこを求めて来られています。庄内地域の場合は、何か新しいものを求めて入ってくる形ではなく、逆に「庄内だから生きていけるんだ」という形で入ってこられている方が多いと思うんですね。その中で、資料に「木造住宅も多いし、それを改善しつつ」というのがあるので、やはり昔か

らの庄内地域の風情を失う一方で、教育に力を入れなきゃいけないというすごくアンバランスな思いをいたしました。ただ、今おっしゃられましたとおり、小学校から中学校まで見ていただくというのはとってもありがたいことなんですね。小学校の子どもたちが今中学へ行って悪くなる、「中学で急に悪くならないでしょう、きっと小学校で何かあったでしょう」と中学の先生はおっしゃいますけど、小学校の先生は、「いやいや、小学校ではよかったけど中学校に行ったら悪くなったんだ」というようなお話もいっぱいある中で、小学校・中学校を通して1人の子を見てあげられるということが庄内に適しているのかと言えば、私は逆に「これは違うんじゃないかな」と思ったりするんです。果たしてその子達にとって見てあげることが、本当は良いことだけでも、何か窮屈になってこないのかなとか、伸び伸びとできないかなというのが、ちょっと不安な点もあります。ただ、本当に庄内地域がだんだん開けてきているので、そんなことを言うと古い人間だと言われるかと思うんですが、何か自分自身がまだじっくりと理解がわからないんです。

**会長** C委員すみません、僕も豊中生まれ豊中育ちですが、今日自転車で来たんです。大分変わりましたね、大阪音楽大学からこちらの通りね。僕は逆に可能性を感じたんですけど、C委員はピンとこないと思われている。「ピンとこない」とはどういうことですか。

**C委員** 私1年間、某小学校で相談室のほうへ行かせていただいたんですが、そのときに彼女ら、彼らは毎日起きることが大切な、毎日生きること、小学生でいながら今日生きていた、今日学校へ来れた、というような子どもたちが多かったものですから、きっとその子達もこの中に入ってくると思うんですね。そのときに、果たして受け皿としてゆったりとした形で見てあげるべきなんだけれども、1つ思うのは、地域の者は9年間、この学校にお世話になるんですけども、先生方は異動が必ずありますので、その異動の中でまた新しい先生と接するといったときに、果たしてその長いスパンの9年間というのはその子にとってどうなんだろうというような思いもするんです。よく見てあげられたらその子のためにもいいんですけど、何か自分たちの生活は変わらないけど周りが変わっていく、どんどん新しくなっていく、きれいになっていくという中で、果たしてその中で一緒にいけるのかなという、違った心配があるんですね。

**会長** たぶん、私まだ半分ほどしか理解できていないと思うんですけども、またおいおい話の中で。

前回の私たちの議論は、例えば庄内が超高齢化、高齢化率も高い、それから生活保護受給率も高い、そしてさまざまな支援をしていくべきではないだろうか、学校教育にきちっとした取り組みをして教育を核にまちを再生させていこうという思いがあったと思うんですね。僕なんか割とストーンとわかりやすく腑に落ちていたんですが、その思いとC委員の発言とはどこで重なっているのか、ちょっと読めないんですけど、一旦これは置いておきましょう。

確かに、9年間1つで育てていくことは、マンネリ化するとかいろんなことがあるんですが、中の工夫でそれはまた、いろいろできるとは思うんですけどね。それから、魅力あるまちに、あんなに道も広がったし、ここで例えば魅力ある学校ができたなら子育て世代が帰ってきて、それこそいろんな人と出会いが増えて自分たちの新しい地平が見えてくるということもあるかもしれないと思いますね。まちの再生にとって学校は非常

に重要な要素だと思うんですけどね。それは僕の意見ですので、後でまた教えてくださいね。

他の委員の方いかがですか。

**D委員** 前回の議論の柱の1つに、高校中退率の高さだとか家庭環境のこととか、負の連鎖を断ち切るという視点が1つあったと思うんですね。そこで、今日、小学校、中学校の校長先生方が来られていますので、子ども、また保護者の思いとか、あるいは校長としてのどのようにお考えなのかという意見をちょっと聞いてみたいと思うんですけども。私は小中一貫で今の6・3制を維持するのではなくて、小学校の低学年から中学年を合わせた4年生ぐらいまでは基礎学力をつけるような取り組みをする、小学5年生、6年生、中学1年生ぐらいまでをターゲットとして今の中学校のような取り組みをする。現在の中学2年生、3年生ぐらいの子どもたちは、進路に向けた取り組みをしていくというふうな新たな特区構想のような、他の学校では実施していないような取り組みも含めて、新たな視点で、ピンチをチャンスに変えるような取り組みだったらいいなというふうに思ったんですね。そのようなことについて、現在の南部地区で校長をされている先生方にそういうアイデアはどうかというふうな声を聞いてみたいなと思っています。

**会長** どなたかまず、お一人ぐらいでよろしいですか、お二人ぐらいの方にしましょうか。

**D委員** 小・中学校それぞれお一人ずつお願いします。

**会長** では、小・中学校の校長先生、1人ずつお願いできますか。

**W校長** 今、D委員のほうからお話ありましたが、学校の子たちを見たときに心配な子どもたちがいっぱいいます。心配な子どもってというのは何が心配かということ、もちろん生活指導とか学習指導とか、そういう面で心配だということなんですけども、それは結局、将来的に職業的自立とか社会的自立ができるかどうかということにつながるというふうに思います。先生というのは、直感的に子どもを見るときには、そういう視点を含めて、今の子どもの状況がどうであるかということを見ていると思います。そういうふうな見方をしたときに、「この子、大人になってどうやって自立していくのかな」、「どうやって自分で生計を立てていくのかな」というふうなことを心配させる子どもたちがたくさんいるなど。「たくさん」という割合がどんなものかというのはちょっと具体的に数字ではお示しすることはできませんけれども、先ほどから出ていますように北部の中学校と比べると、その割合はかなり高いんだろうなというふうに思います。

そういう意味でいきますと、南部地区の中学校、小学校の再編というテーマには、やはり子どもたちをどう社会的、職業的に自立させるかということがそこにはないといけないというふうに感じています。そういう意味では、今後「キャリア教育」ということの視点を含めて子どもを育てていく、もちろん小学校と中学校が連携して9年間の中で将来のキャリアをどうやって身につけさせるかということが一番大きな課題になっていくんじゃないかなと、僕はそういうふうに今感じています。そのときに、その課題というのは学校だけでは到底解決できるようなものではないというふうに思っていますので、地域とか、あるいは地域に暮らす大人の方の後ろ姿を見ながら、それをモデルにしながら、大人モデルも数多く目にしながら、子どもたちがそれを身近に感じながら育てていく、勉強していくというふうな環境を是非つくっていただけたらいいんじゃないかなというふうに思っています。

その環境というのは、僕も昨日、会長の講演を聞きに行きました、環境をつくるということについては、昨日もお話ありましたけれども、例えばコミュニティスクールというふうな、そんなこともあるんじゃないかなと思いますし、この試みに示されている小・中一体型、公共施設一体型というふうな、いわゆる「箱物」ということになるかもしれないけれども、そういうものを核にした教育の場づくりというふうなことも大きな意味としては考えられるのではないかなというふうに思います。いずれにしても、子どもたちが自分の将来像を描けるような、そんな大人モデルあるいは地域のモデルを身近に感じながら、いつでもそこへ行ける、そこへ行けば自分の将来の姿を垣間見ることができる、そこから今自分が勉強することの意味もまた考えていける、それこそ特区みたいなものができたら非常にいいなというふうに思っています。

**X校長** 案を見せていただいて思うのは、まず1つは、子どもたちがうちの場合でいうと2つの中学校に分かれていくということがあって、それも半々ぐらいだったらいいんですけども、六十数人ぐらいの6年生の1割ぐらい、せいぜい10人ぐらいが1つの中学校に進学しているという事実があって、子どもらにしてみたら同じクラスで頑張っていたのに、住んでいるところで、通り1本隔てて中学校が分かれちゃうみたいなことは何とかしてやりたいなと思います。それが1点目です。

それから、もう1つ思ったのは、小学校区というそれなりに、うちももうすぐ50周年になるんですけども、地域の願いがあって小学校をつくった当時の人たちがまだまだたくさん地域にいらっしゃって、願いを込めて学校を守ってきた、つくってきたみたいな「思い」がたくさんあるのは事実なんですね。それを再編するということになると、こんなことが再編したらよくなるんだよとか、もっと大きな視点で、例えば豊中市の南部の子どもたちのためにこれが大事なやみたい、こういう方向が大事なやみたい、なことが丁寧に、地域の方たちも含めてプレゼンテーションできるようなものをつくっていかなくはないかなというふうなことを思います。

3点目に思ったのは、全国あちこちでいわゆる学校選択というのが出てきていて、学校のいろいろなシステムをそういう形で特色を打ち出すということで、一定成果を上げているところもあると思うんだけど、逆に地域が崩れていくというか、地域と学校の関係が崩れていってしまうみたいなことや、なくなる学校やあるいは廃校されていく学校の地域の子どもの自尊感情などはどうなっていくのかなみたいなことは、これまでの幾つかの事例を見て思っています。なので、なかなかそこへ立つのは難しいかなというふうに個人的には思っています。

それから、4点目に校区の再編というか、小学校区、中学校区をどうしていくかっていうこともさることながら、さっきのビジョンの問題でいうと、やっぱり負の連鎖を断ち切るということであれば、たぶん子育ての段階から保護者や子どもたちを支援していくシステムをつくれるのかと。だから、施設一体型という話も以前会議で聞かせていただいたんですけども、例えば僕が今思っているのはカナダの事例です。基本的にカナダは移民の国なんですよね。さまざまな言語が使われている国の中で学力をつけていく、あるいは子どもたちの進路を保障していくという場合に、子どもが生まれたら学校の子育て支援センターに関わる、小学校の先生も保育所、幼稚園の先生たちもそこへ関わってこの地域で育っていく、あるいは育てていく、子どもたち、親子を見守っていくみたいな社会全体のシステム、地域のシステムみたいなものができているというふうに

聞いています。思い切って、例えばそういうものにまで踏み込んだ中で学校をどうするのかみたいなことを論議していかないと、たぶんいろんなことで、逆にしがらみの中で動けなくなっていくんだろうなというふうに感じています。

**会長** ありがとうございます。

今日はオブザーバーで来ていただきましたので、ご発言いただきました。またあとお二人の校長先生にも次の機会にもしご発言いただければありがたいと思います。

最後にX校長がおっしゃいました、いわゆる複合施設型とか、0歳からの15歳までの子育てという発想は我々もありましたよね。そういったものをどこかの小学校に併設できないか、あるいはその前にW校長がおっしゃいましたようにキャリア、生きる方向性、キャリア・メディアセンターなどをどこかの中学校につくれないかとか、これまでの学校の枠を超えた複合型施設をつくることはできないかとか、いろんな話はしてまいりました。

いかがでしょうか、アイデアとか思い、もう試み②も試み③も選択制も含めていただいて結構でございますが。

**E委員** 失礼します。

この審議会には公民分館協議会のほうから出席させていただいておりますけれども、仕事上、乳幼児の保育をしております、今お二方の校長先生のお話を聞いています、私も思っていますのが、今日も午後から幼・保・小の連絡会がございました。中学校はもちろんそこには入ってないんですけども、幼稚園、保育園、それから小学校の連携、小学校の先生も中学校の先生も小学校と中学校の連携、この辺をすごく大切なことだということできているんですけども、我々も乳幼児から小学校、そして中学校というような形での連携であるとか、地域での一貫性のある子育て、教育ができたかなというふうにいつも思っております。

その連携が非常に難しく、その連携を強化していくにあたって、この試み②にあるような一貫教育で枠組みをつくって、そして乳幼児から小学校、中学校へというような形でつなげていくというのは、個人的には非常に案としてはあるなど。校区がいろいろ変わることに対して、地域住民やその校区の保護者の方々、子どもたちの思いや意見を酌み取るということは大切だけれども、将来的にどういうふうな形で進めていくかというときに、変えるときには必ず摩擦といいますか、苦情があったり、そういうふうなことも出てきます。それを恐れていると何も前に進まないの、そういう意味では幼稚園、保育園、そして乳幼児から中学校までの一貫性のある教育、そして先ほども出ておりましたが、社会教育、地域のいろんな諸団体の社会教育と絡み合わせて一貫教育としていくのが良い方向じゃないかなというふうには思っております。

**F委員** いろんな意見が出ているんですけども、試み①と②を足したらどないなるのかな。校区がどうのこうのというよりも、子どもたちが自由に選択できる、①の場合に例えば北校舎とか中校舎、西校舎で、北校舎は音楽を重点的に中学で教えますよ、中校舎では体育会系を教えますよ、西校舎では進学、文系とか理系とかを重点的に教えますよということで、もう今、各年代が低年齢化しているわけですよ。だから、そういうふうな子どもたちがやりたいことをできる中学ということであれば、試み①と②を足すのが一番いいんじゃないかなと。そうなれば、校区割りがどうのこうのじゃなしに、この地区においては小中一貫でこういうことができますよという、子どもたちの選択する1つの特

色ある中学づくりというのもモデルとしてはおもしろいかなというふうには思います。

**G委員** 古い話ですが、ちょうど南桜塚小学校ができた。そして、僕は桜塚小学校へ5年間通っていて、その2年前から小学1年生、2年生、3年生だけ先に南桜塚小学校に通っていて、まさか6年生になってから変更はしないだろうと思っていたのに、ポーンと6年生から南桜塚小学校へ行きなさいと。また、中豊島小学校からも一部の地区が校区変更で入ってくる。やっぱり5年間一緒に遊んでいた友達から、近くには何人かはいてましたけども、教育委員会っていうのはパッと切ったわけですね、校区を。そしたら、今度うちの娘たちが学校に通うようになって、ちょうどうちの地区は第三中学校と第一中学校の接点ですねん。長女は第三中学校に行きました。そしたら、人口が増えたので、国道を挟んで向こうは第一中学校区に変更されました。それで、うちの2番目の娘は第一中学校へ行って、今度また校区が変わって、下の息子はまた第三中学校へ行けと。私はそのとき思ったんですけど、教育委員会というのはどれだけえらい権限があるのかなと。もう文句も何を言いにいってもあかんという状況。そのときの保護者は、仕方なく受け入れてきた。

ところが、今果たしてそのような簡単にパパッと区切りましたと、例えば小学校、中学校ができて統一します、というふうにできるかといえば、恐らくまず無理だろうと。じゃあ、何をやっていったら先ほどX校長が言われたように、やはり何かの特徴で、保護者も「確かにこの学校があることは良いことだな」というふうな、ものすごく魅力あるような提案をしていかなきゃ、恐らく今この3つの案ぐらいでは、これで再編しましょうと言っても、まず「今まで私のところはずっとここの学校に通っていたのに、こんなもんあるかいな」という、それを逆に学校がこれだけ魅力があって、庄内地域の課題の解消、W校長が言われたような子どもたちのいろんな問題も解決できますよというふうなカリキュラムのある学校づくりをまず考えてやっていかんことには、恐らくこの再編だけで考えても、とてもやないがまず進まないだろうと。地域、地域って言われますけど、地域なんてあまり関係あるようでないんです、正直言うて。何ぼ言うてても、大事なのは結局は家庭なんです。家庭が問題、だからその辺から考えていくと、やはり親御さんが納得のいくような教育方針を、いつも会長が大学等でいろいろと言うてくれてはる、そういった小中一貫校にしていくとか、地域の高齢者も入っていける図書館を併設したり、そういうような複合型施設でやっていくとか、とりあえず何か魅力を打ち出していかなければ、とてもやないがこの再編案では、恐らくこれからはちょっと無理だろうと思う。よほど時間かかる。そうすると、小中一貫校や公共施設複合型で1つの新しいものを建てると言えば、次に予算はどないなんねんって、こうなってくると思うんですよ。その辺は別として、だからもっと魅力ある学校のつくり方というか、教育のあり方をこの庄内地域では特に考えてやっていかんと、ただ単に人数の調整で少なくなってきたから統一していったらどうやというふうな校区分けは、まず無理ではないかなと。先ほどC委員はそういうことを恐らく言うておられると思うんですけども、まずもっと建物を魅力ある、どういうものにしていくかということの議論を出してもらったほうがありがたいなと思うんですけど。

**会長** そうですね。3つの中学校の特色化ということだったんでしょうか。その前の段階は、小学校の通学区域の進学先の中学校をどうするか、中学校区の編成といってもいいですけども、それも難しいとおっしゃいますけど、例えば千成小学校のように1対9ぐらい

に分かれてしまう小学校であれば、進学先を全部、第六中学校にするということに対しては、そのことのメリットを訴えれば、それはそちらに利があるような気はするんですね。ただ、半分半分ぐらいの学校のところが問題ですよ、あと2つの学校。そんなところもやっぱり1つの中学校に、まとまった中学へ行きますよということのメリットをやっぱり訴えていくんでしょうね、やるとすればね。

もうちょっと別の考えは、例えば先ほどのご意見にもありましたが、中学校を特色化させてもう6つの小学校からは好きな中学校へ進学してもらおうということがあると思うんですが、僕はその中学校の特色化についてはちょっと自信がなくて、やっぱり指導要領の縛りがかなりあって、音楽の時間の実数も全部決まっているので、あとは例えば部活とか、そのレベルになってくるのではないかなとは思うんですね。あとは、複合施設とか見てすぐわかる違いをつけるのはいいと思います、施設一体型をつくるとか。ここは0歳から12歳までの子どもたちが一緒に過ごす複合施設だと、そんな形で見た目すぐわかる特色を出すのは意義があると思いますけど、教育課程の中身でそれほど、例えば英語に特化する学校なんてカリキュラム上は難しいですよ。やっぱり、義務教育学校でありますから年間授業日数も決まっているからね。その方向づけは、教科外のところを出していくことになると思いますね。

**H委員** 大筋は今のお話でいいんですが、私自身の話で言うと、私は吹田市に住んでいて校区替えを経験、その当該学年に当たったときのPTA会長をやっておりますね。その関係もありまして、もうものすごい実施段階の話で言うと、今先ほどおっしゃったような校区替えのときにいきなり変えるというのは難しく、そのときに調整というか、親の願いなどを集めに回ったんですが、吹田市でやっているのは、私の身の回りでは在籍している子どもが校区が変わるときには、その子が卒業までどっちの学校に行きたいか希望を聞き、例えばそのお兄ちゃんが当該学校にいたら、その兄弟関係が続くまでその子どもは同じ兄弟のところに入れるようにする。兄弟関係についてはずっと続くので、極端な話、上の子どもが6年生のときにまた1年生が入ってくる。それが続けば、いつになったら旧校区が終わるのか、はっきり言ってわからないんですが、兄弟関係についての特例的な運用ということで、当時はそのような要望もなかったんでしょうが、今どきは現実的な落としどころというか、適用するときにはいろんな工夫ができると思いますので、それより本筋の特色のある学校づくりであったり、どう育てるかみたいなことをまず打ち出して、「うちの子どもがどうなんねん」みたいなところの逃げ道というか、それは当然考えるものだという理解で議論を進めていかないと、実際うちの子がそんなんやったら永久にできませんからね。だから、その逃げ道のあたりの共通理解というのを持ちながら進めていったらいいのかなと思いますけど。

**会長** 漸進的にというか、一定の猶予期間のことですね。

**H委員** はい。

**教育長** またがらっと議論の中身を変えてしまうんですが、実は僕がものすごく心配しているのは、中学校を出た後の進路保障、高校進学のことなんですけど、平成26年、あと2年後ですよ、全県一区になりますから、今の学区は全部撤廃でどこ受けてもええということになってしまいますよね。だから、豊中市に住んでいる子が岸和田高校を受けてもええし、岸和田市の子が豊中高校を受けてもええという形になりますので、そうなったときに南部地区再編の試みを幾つか提案させていただいて、条例で大阪府橋下改革で

決めておられるのは、3年連続定員割れであれば廃校ということを決めておられて、だから我々が誤解したらあかんのは、今、豊中市内にある5つの府立高校があるかどうか、この先わかりませんよ。3年、5年後にその高校があるかどうかはわからない。廃校になっている可能性もある。そうなったときに、南部地区の子どもたちに対して、最終的に進路保障がちゃんとできるのかということをしごく心配するんですよ。だから、南部地区の子どもたちについては、学園構想なり小中一体の施設改革なりをしながら、学力を圧倒的に上げないと、0歳から15歳だといっても、最後進路がつかめないという可能性を非常に感じているわけです。だから、そのあたりの何となく不安感というのが、後でちょっとY校長先生に聞いてみたいと思うんですが、大阪府教育委員会の方が以前に来られて、「全県一区になったとき豊中市はどうですか、大丈夫ですか、大体地元の高校を受けますよね。」と聞かれたので、「いや、そんなことありませんよ。」と言っておきました。「南部地区の子は大手前高校をねらいます。距離的には非常に近いし、大阪城のほとりにあって環境抜群のところで部活動もできるし、こんなうれしいことはないわけやから絶対にねらいますよ。」ということで、そのための南部構想でもあると僕は思っているんですよ。やっぱり、その進路保障ということを考えてときに、これはもう9年間の進路保障は義務教育の総和ですので、9年間、小学校6年間、中学校3年間とすごくいい教育をやってきていても、最後に進路保障ができなかったら全部ペアになりますので。橋下さんは豊中市民やから地元ですよん。何となく大阪では組合文化とか同和教育の文化があって、彼を揶揄（やゆ）して真剣にとらえないところがあって。先日、東京であった中核市の教育長総会に寄せていただいたときに、中核市の教育長の方々は橋下改革をすごく真剣にとらえていますね。だから、こんなこと決まっているやろう、あんなこと決まっているやろうということで、かえってふだん姿が見えないから真剣にとらえておられる。そのこと（3年連続定員割れで高校廃校）は「そんなんあかんで」「ちゃんと子どもは育てなあかんねん」と言っても、条例で決まっているわけですね。その対応を我々がどうすんねんと、3年後にどうすんねんと。今ある高校がなくなるかもしれないよと。「いや、今まで行けてたから行けんのんちゃうん」と言っても、「行けません」と言われる。自分で進路を勝ち取らなあきませんよという状況を目の前にして、この南部の子どもたちの進路保障、これをどう考えればよいかというときに、やっぱり緊急課題やなと我々は思っているんですが、Y校長はいかがお考えでしょうか。

**Y校長** 現在の学校は2年目ですが、その前に庄内地域の小学校に4年間おりまして、小学校の授業はしていませんが子どもたちの学びの様子、学力実態、もちろん小学校1年から6年までありますので、随分変わりますね。それで、ある程度小学校で、私は数学が専門なんですけど、算数、数学の中でやっていて、表面的な部分といたらあれですけど、小学校の子どもたちはデータの部分は（学力が）つきやすいと思います。今、大阪府学力テストや全国学力・学習状況調査のデータが出ていますが、それで一喜一憂するのはどうかなと思いますが、その数字をどうしようかというのは、小学校の中では意外とやりやすいです、純ですからね。しかし、中学校に進んで、そのまま行くのかといたら、もちろん違う力をつけて頑張る子もたくさんいますが、先ほども話がありましたように、かなりの割合でやっぱり「負の連鎖」というんですかね、一言で言ったら。しんどい状況を持ちながら中学校を終え、高校進学する。昨日も実はある校区の大きなスー

パーで私、ちょっと必要なものを買うために行ったんですね。そしたら第六中学校、第七中学校の卒業生の連合体、高1です。真っ茶っ茶もおればピアスもおる。それで、私の中学校の卒業生が、「えっ、何で校長先生知ってんの。」ともう1つの中学校の卒業生に言っているわけですね。ほんなら、大きな声で「小学校のときの校長やん。」と言うので、「いやいや、大きな声でやめなさい、君ら。」というやり取りがあつて二十数人が寄ってきましたけど。それで、何人かは「もうやめてるんや。」「実質、やめてんねや。」と言うわけですよ。そういう感じの安易な道（高校中退）に動いて、やっぱり学力が備わっていませんから、ほとんど全員を知っていますから。今ずっと話が出ていますが、校区を再編することによっていろんな課題というんですか、マイナスの面も出てくるということで反対もあるでしょうが、南部地区は私6年だけですから大きなことは言えませんが、子どもたちを見ていて学力に非常に偏りがある。就職しようが、大学に進学しようが、何をやるにも学力は要りますからね。そういう学力をつけるシステムづくりは何がいいのか。同時に子どもの数が、先ほどのデータのように少なくなってきましたよね、南部地区は。南部地区は、はっきり言って僕は生活しやすいけど、学習する環境としての魅力はどうなのかということは非常に感じます。もちろん、いい子たちもたくさんいるし、地域もかなり応援はしてくれますよ。しかし、先ほど言ったようなタイプの「本当にしんどい子たち」の層が厚いです。その層がやはりしんどいわけですよ。その層をどうするか、ハード面やソフト面で仕組みづくりをどうするかということは今すごくチャンスだと思いますので、やはりある程度「英断」することも含めて考えていかなければ。庄内って私はよう言いませんけど、先ほど言ったように6年しかおりませんからね。しかし、何らかの魅力あるまちづくりというのは、小・中学校を再編する等のことで変わってくる可能性を僕は非常に感じています。だから、先ほどから出ている南部コラボという言い方かどうかわかりませんが、つまり0歳から6歳までの子育ても大分いろんな議論がされています、それまでもね。それから就職のこととか、もちろん進路保障のことも出ています。ひっくるめたような仕組みづくりも同時に考えていくチャンスじゃないかと思っております。

**会長** どうもありがとうございました。

いろいろと議論、ご意見あると思いますけれど。

**E委員** 今、教育長が高校の進学の問題のことをお話しされました。先ほどからこの内容の中で小中一貫の話をしていたんですけれども、私自身は高校のこと、進学に向けてのことというのは、なかなかちょっとわかりづらいところがあるんですけれども、ただ教育現場といいますか、幼稚園、保育園、そして小学校、中学校と、いつも就学、進学するところで途切れるというのがありますよね。その中で、例えば一貫性のある教育なりシステムがあることによって、今Y校長先生がおっしゃったように、非常に厳しい子どもたちの層が南部地区にはあると。それは昔からそうですよね。我々が子どもの時代からそうでした。それは重々わかっているんですが、一貫的な教育システムをつくることによって、小さいときから年を重ねていって高校に行く段階までの中学3年生までの間に、いかに教育現場の先生方、そして大人、家庭がいつも連携し合えるような状況があるかということが1つの大きなポイントだというふうに思っているんですね。こういうふうにしたからピアスはやめられたとか、そういう層が少なくなったというような結果はすぐに出るものではないんですけれども、小さいときから高校行くまでの間っていうの

は、もうほぼ大人になる基礎的なものが全部でき上がっているわけですから、小さいときから、一貫性のある教育システムを実施することによって、子どもたち、例えばA君という子どもたちをみんなが共有している、教育現場も共有している、A君を知っているよ、B君も知っているよ、というような環境をつくれることが1つ大きな手がかりになるんじゃないかなというふうには僕自身は思っています。

**H委員** 先ほどの教育長のお話を聞いていて、多様な進路選択とともに、やっぱり学力保障にも焦点を当てていくことが大事なんだろうと思うんですが、そうなることは校区再編の話とは違いますが、やはり補習教育をどこまで真剣にやっていくのかと。極端なことを言えば、この南部構想でいろんな新しい学校ができるときに、そこはもう塾に行かなくても夜に授業しますと。その分の資本投下は行政でやりますと。そのときに、勉強主体のところと、例えば音楽をきわめるかどうかは別にして、通常の学習指導要領に定められたカリキュラムで勝負するのではなくて、上乘せした形で夜に授業をやるんや、晩御飯も出すんや、というふうなところまで本当に決意して、行政もそこへ財政投入して取り組んでいくんだと、その決意のもとにこのような構想をやっていかないと。枠はできました、普通に9時5時でクラブ活動やったら終わりですというふうなことでは、どう考えても格差は埋まらないし、逆に言うと、じゃあ何で南部地区だけ無料で塾みたいなことができるんやと言われたら、「そしたら北部の方もこの中学校に来はったらいいんじゃないですか。」というふうにして、逆に北部の方にこっちに来てもいいぞというふうな開き方をするとか、そういうふうなことをして、本当にもう真剣に、死に物狂いで取り組んでいるんだという姿勢を見せていくことができればいいなと思います。それから、どこまでできるかはさておき、本当に9時5時の昼間だけの勝負でやっていくような再編ではちょっと苦しいんじゃないかなというふうな気がしています。

**I委員** 春休みぐらいに庄内少年文化館というところに1カ月ぐらい出入りしたときに、小学校の高学年から中学生ぐらいのちょっとやんちゃそうな子どもたちが、あそこは図書館が1階にあるんですけど、その図書館を見ておられる大学生ぐらいのお兄さん、お姉さんにすごくなついていたんです。そういう光景を見たことがなくて、私の周りでは。ちょっとやんちゃそうな子どもたちがああいう、まさにお兄さん、お姉さんにすごく心を開いて接しているところを見ていると、それをもうちょっと勉強とか生活とか、そういうところまで大学生ぐらいの方たちに頼って、ボランティアになるのかもしれないんですけども、頼ったりするような場所がもうちょっとあればなど。今もしかして小学校や中学校にもあるのかもしれない、その辺ちょっとわからないんですけども、もしできることならばそういうところにもちょっと予算を配分されたら大分変わるのではないかなというふうに思いました。

**会長** いかがでしょうか、あともう十数分となってまいりましたけれども。

先ほどもありました庄内地域の子どもたちの学力を確保しなければ進路保障にはならないと、ますます全県一区になって、今日もちょっと話しましたが、教育長もおっしゃっておられましたけども、入試制度も3教科、5教科みたいな感じで、そういう制度が実際、庄内地域のしんどい子どもたちを救えないのであれば、制度が間違っているんですよ、それは。兵庫県も同じです。だから、その制度に対してやっぱり我々は批判的に向き合っていかなあかん。塾になってしまいますよ、学校がね。すると、僕なんかはよく言っていますが、学校でできることって実はすごく限られていて、やっぱりH委員

がおっしゃったように、その学校の取り組みを支えるのは、やはり地域だと思うんですね。家庭はもう教育力を失っていますから、それをサポートする放課後学び舎をつくったり、支える地域をつくっていかないとたぶんだめなんだろうと。

もう1つは、庄内を魅力あるまちにしているんなタイプの層が、人がもう庄内に入ってくるということも活性化だと思っているんですね。その辺で、もう1つだけ言わせてもらおうと、例えば第十中学校と野田小学校が1小1中になり、施設一体型の学校になったとしますよ。京都には4校、施設一体型で9年制の学校があるんですよ。学力は著しく向上しています。もうデータがはっきり出ています。これはやれば絶対上がります。ただ、「なぜそこだけなのか」という問いに対して、やっぱり「そこに必要だから」という理由で京都はやっていますよね。京都は学校選択制をやっていないから、ここに住んどったらそのすごい施設一体型の学校に行けるけど、こっちに住んでいたら行けないんですよ、道路1本隔てて。でも、それは「ここは必要だからやってるんだ」という説明をしながらやっていますね。だから、ああいう方法でも、いわゆる「学力」は上がりますね。それ以外のこともいろいろあると思うんですけども。大阪市西成区なんかは塾のクーポンを出したりするというふうに言っていますけども、同じ豊中市内でそれをやるとなると、おっしゃったように選択制も入れていかないと、「なぜ庄内地域だけそんなことやるんだ」と、第六中学校もそれに近いこと（庄内公民館主催の学力向上支援事業）をやっておられましたけどね。それも説明の仕方だと思いますけれども。

Z校長はどうか、もし何かありましたら。

**Z校長** 先ほど、教育長のほうから学力の向上という点でお話がありましたけれど、私も小中一貫、9年間子どもたちを見ていくという点で、1人の子どもを9年間のスパンで責任を持って見ていくという観点では、学力の向上ということが図れるのではないかなというふうに考えています。特に、小学校では、やっぱり学習習慣づくりっていうのがとても大切なことだというふうに考えています。学校の先生が宿題で出したものが次の日にきちんと仕上がってくるかというとなかなかそうはなっていないところがあって、じゃあ家で宿題をする習慣がないのかという、なかなか親御さんが帰ってくるのが遅かったりとか、そういうことをまだまだ見てもらわないといけない家庭状況であるにもかかわらず、またそういう年齢であるにもかかわらず見てもらえない。だとしたら、どこかがやらないといけないというふうに考えています。特に、小学校の場合でしたら、しつけという点では親御さんに期待するところが大きいんですけど、なかなかそれができてこない部分については、その子の幸せとか将来的なビジョン、就職も含めてですけども、やはり学校が何らかの形で関わってやらないといけないでしょうし、学校を終わった時間帯からの後の、先ほどもいろんな意見が出ていますが、そういう部分においては行政がいろいろな施策を打っていかなあかんのと違うかなというふうに思っています。学校でも、例えば算数に特化して言えば、計算の問題なんかはプリントを活用しながら朝の時間や、そういうところでやっています。私の学校で言えば、大阪府学力テストで去年、今年とちょっと成績が出ているんですけど、ほんの少しです。ほんの少しですけども、効果が上がってきたように私は感じていますし、子どもたちも、今日ちょっと研修会があったんですけども、子どもたちのデータなんかを見ていますと、算数学習については自分たちはよく頑張れているというふうに自分たちで認識している部分があります。ですから、やはり習慣づけて、量的なものを与えてやることで随分学力向上も

図れる部分があるのではないかなというふうに1つ考えています。

それから、地域の面で言えば、学区の編成ということなんですけども、私は小学校区の編成というのはなかなかやっぱり難しいだろうなと思っています。特に、私は庄内のほうが長いんですけれども、いろんな学校に行かせていただいた中で、保護者の方やその地域に住んでおられる方は、やっぱり自分の学校、自分の出た学校ということに対してすごい誇りと「おらが学校」という思いを持っておられますので、そういう意味では小中一貫をやっていくために2小1中というふうな校区再編をやるためには、やっぱり魅力、先ほどから何度も言われています魅力を出していかないと、「こういうことをやることによって、こんな子どもに大きな変化が出るんです。だから理解してください。」というようなものを発展的な形で言っていかないと、なかなか第六中学校、第七中学校、第十中学校というような枠をそのまま残しているだけでは、保護者の方、また地域の方は理解していただきにくいのではないかなというふうに思っております。その2点についてちょっとお話をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

**会長** ありがとうございます。いかがでしょうか。もう10分を切ってまいりましたが、どうぞ。

**J委員** 大体いろんな意見、先生方、4人の校長先生方、非常に地元で取り組んでおられますので、地元の状況とか子どもの育成等々を考えてみますと、やはり庄内地域をいかに底上げしていくか、そして地域の皆さん方で一体になってプラス思考でこれをしていかないと、ネガティブなことばかりでは前へ進まないと思います。校区の区分けも私はそうだと思います。子どもたちは、やはり幼稚園、小学校の初めぐらいのときの育ち方が、後年大きく僕は影響してくると思いますので、幼小中一貫、これはやっぱり絶対大事だと思います。そして、F委員が言われましたように、例えば中学校、いろんな形で体育会系あるいは芸術系あるいは理数系とかというような形で、これは例えですけれども、子どもたち自身が興味を持ってこれをしていこうと、私も小さいときの覚えがあるんですけど、何かきっかけがあって興味を持ち出すと、非常に一生懸命頑張って、だんだんレベルが上がってきます。これは、まさに正のスパイラルなんですけど、そういうふうな学習環境にどう庄内をもっていか、構築していくかということが非常に必要ではないかなというふうに思います。大体全部、今日は意見が出尽くしたのではないかなと。「ええとこ取り」というたら怒られるかもわかりませんが、良いところをどんどん取り入れて、それから悪いところは捨てていくということで今後プラス思考で是非進めていっていただきたいなと。そして、庄内をすばらしく魅力のあるまちにしていくと、これがまずやっぱり大事だと思います。今のところ、我々も北部におりますので、例えば生活保護率が他の地域に比べて高いという話も出ておりますけども、これをどういうふうに再生させていくか。私もF委員もロータリアンなんですけど、ロータリークラブのメンバーで職業体験ということで、自分の会社に子どもたち何人か来てもらったけども、その子どもには非常にびっくりしたんですけど、親が全く働いてない。遊んでいるということで、親の仕事をしている姿を全く見たことないということで、自分が将来寄って立つ生活基盤をどういうふうにすればいいのか、基本的なことが全く身につけてない。ということは、もう将来、ずっと未来永劫ニートですわね。こういう形になっていくということで、今、日本全体でも言われておりますけども、子どもたちが自分らの将来をどういうふうにしていくのかという目標が全くないままでいったら、これはも

う非常に日本は治安の悪い国になってしまいます。まさに今そうならんとしておりますので、是非、豊中市は庄内からのろしを上げるという気概をもって、教育委員会も先生方もプラス思考で、我々も、人間もしっかりこれからやっていくということが私は必要じゃないかというふうに思います。どうも失礼しました。

**会長** ありがとうございます。

1点だけちょっと付け加えさせていただきます。

学校選択制のことですが、学校関係者の方はよくご存知だと思いますが、選択制のバリエーションの1つで一方通行の選択制というものもあるんですよ。例えば、さっき特色ある学校づくり、第六、第七、第十中学校を特色ある学校にしていこうと、もちろん第六、第七、第十中学校区の子は皆そこへ行くんですが、よそから来る者は拒まない、しかし第六、第七、第十中学校区の子が第十一中学校に行ったり、第四中学校に行くことはできない。この一方通行の選択制というのがあります、姫路でもやっていますね。だから、そういったこともあり得る。だから、第六、第七、第十中学校は非常に特色ある学校ができて、そこへ来るということは認めると、しかし庄内地域の子はやっぱりそこへ行くんだということをやっている自治体はございます。あくまでも参考としてお伝えしておきます。

あと5分ぐらいなんですけど、もうお一方ぐらい何かご意見ありましたらどうぞ。

**A委員** すみません、放課後学習のことでちょっと一言いいですか。

H委員からも放課後の学習についてということでお話があったんですけど、校長先生からもお話がありましたけど、家庭の中で子どもの勉強が見てあげられないという家庭が本当に私の周りにもたくさんあります。掛け算の九九だとか、小学校の本読みの宿題だとか、それを親に聞いてもらえない子どもたちが、例えばそういうところに通えて、小学校の帰りに寄って親が帰ってくるまでの時間、勉強できて、親と一緒に帰宅できるというような施設があれば、学力の向上につながっていくんじゃないかなと。そして、プラスそういうところで未来というか、将来に対するビジョンをもたせてあげるといえるか、やっぱり家庭ではなかなか。ビジョンをもっている子はたぶん学力はそこそこあると思うんです。私は中学校の保護者で、自分自身が受験生を抱えているんですけど、うちの子はちょっと学力のほうは悪いんですけど、ただ本人は将来に対するビジョンはもっていて、そこに対する努力はしようと、学力は悪いんですけど将来に対するビジョンはあって、だからたぶん努力はしていけるんだと思うんです。家庭ではなかなかできない部分を地域で一丸となって、私たちの小学校区は、公民分館さんにもお世話になっているし、社会福祉協議会（校区福祉委員会）さんにも、また健全育成会さんにもすごくたくさんお世話になっています。やっぱり、そういう方々の力があって子どもたちが素直に育っている部分もあります。そういう放課後学習のところに力を入れていただけると、また学力の底上げにもなるんじゃないかなと思うんですけど、放課後学習を例えばこの6小学校区のだこか1カ所にボーンとつくってしまうと、例えば庄内南小学校区につくっていただいても、やっぱり野田小学校区の子は自分1人で通えないですね。かと言って、親が連れてきてくれるかということ、やっぱり親は仕事に行っているんで、つくっていただいても通えないです。だから、例えば小学校の横にある共同利用センターなどでボランティアを募って、例えば夜8時とか9時までとか、放課後学習につき合っていただけるような学生さんであるとか、そういうボランティアが募れて、そういう対応

をしていただけると子どもたちの学習意欲もわくだろうし、家ではなかなか学習ができなくても、そこでだと勉強が楽しいという思いをつかめて、そこからやっぱり勉強が楽しいもんだと思えたら自分で勉強していくことにもなると思うので、南部は特にそういう放課後学習に、そこだけじゃないですけど、そこにも力を入れていただけたほうが学力が向上していくんじゃないかなと思うんですけども。私の一意見ですけど、そういうところにも力を入れていただけたらなと思います。

**会長** ありがとうございます。

もう大体、予定の8時になりました。もうあえてまとめることはないんですけども、庄内地域の活性化が大事だという話がありました。夢を語りたいという話もありました。

学校教育の中で学力保障、さまざまな進路保障をしていこうっていう、もちろん大事です。そのための新しい制度、小中一貫教育やいろんな複合型施設、その制度も考えていこう、同時に学校の授業が終わった後ですね。そこで支えられる支援を制度化していこうじゃないかと、放課後学び舎を制度化しようじゃないかと。そういった取り組みを、たぶん複合的な取り組みをやっていかないと庄内地域、南部地区の活性化はまずないんだろーと思いますね。それを全部複合的にやろうじゃないか、そんなビジョンを、豊かな未来をかけるような答申であればうれしいですね。そんなことを今日思いました。だから、今放課後学び舎の制度化というのはとてもいい案だと思うし、学校でまたできることもあるだろうし、中学校を個性化していくっていうことも僕はあっていいと思いますね。公立学校はもう多様化していいです。ただ、エリート校をつくるのは個人的には僕反対して、しんどいと思うんだけど、いろんなタイプの学校があってもいいと思いますので、そんなところの議論が今日深まったかなと思うんですよ。

**C委員** 今のお話の中にもあったんですけど、以前こういう審議会の中で、児童館、「豊中市は児童館がないよね」「あれば助かるよね」ということをずっと言い続ける方とか、そういう話も出ているんですけども、「いや、できません。」の一言で終わっているんですが、今後はここじゃなくって、きつとここだけで反映していったら北部のほうも出てくると思うので、「じゃあ児童館があるじゃない」と言えるような方向性は信じられるのでしょうか。

**会長** 皆さんの総意であれば、そういう提案をすれば答申案に書いてくれるしね。公民分館を活用しろというのは、反論がありそうですけどね。

**C委員** あそこはちょっとね。

**会長** そういう方もいらっしゃるので、それはちょっと詰めましょうよ。

ちょっと事務局、今度の審議会は大体いつごろの予定ですかね。

**企画チーム長** 失礼します。

今、月一回ぐらいで進めておりますけども、なにぶん、この後議会が始まりますので、10月の半ばから下旬あたりで次回審議会を開かせていただければというふうに考えております。

**会長** そのときは、もう千里地区へ移るんですか、まだ庄内地域でもう一遍審議するんですか。

**企画チーム長** 庄内地域の部分について、今回で結論が出たというふうに認識はしておりませんが、通学区域だけではなしに教育内容に関わっているいろいろと議論をさせていただいてお

りますので、一旦、南部地区についてはここまでとして、次回、千里地区についてご議論いただくときにあわせてこの南部地区の教育内容についてもご議論いただき、最終答申の折に、再度、南部地区についてはきっちりと文言を精査していただきたいというように考えております。

**会長** 私は1つ気になったのは、小学校の分割校をなくしていこうという議論がちょっと盛り上がりかかったんですけども、それは難しいという意見が出ましたよね。住民感情的に2つの中学校、おれは第七中学校に行っていたのにどうして下の子どもは第六中学校なんだということはやっぱり解消できないだろうと。H委員は、兄弟関係は優先するなど猶予をもたすことで、ある程度対応できますよとおっしゃった。これは1つ、いつか私たちは合意せなあかんと思いますね。基本的に庄内地域にある3つの小学校、分割校をどうするのかということ、できるできないは別にして、この審議会としてはこういう方向で行くべきであろうと。それはちょっと宿題として残りましたね。それは確認させてください。

もう時間がなくて申しわけございません。進め方が悪くてちょっと時間オーバーしてしまいました。ありがとうございました。

本日はこの辺で審議を終えたいと思います。ありがとうございました。

あと事務局、何か連絡等ありますか。

**審議会事務局** 本日はどうもありがとうございました。

そうしましたら、次回の日程につきましては、また後日郵便で調整させていただきたいというふうに思いますので、その節にはどうぞよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。